

下野市立石橋中学校

1 学校課題

「学び合いの授業を通じた、力強く生きる生徒の育成 ー対話のある学びへー」

2 研究計画

学びの共同体を組織することにより、本校のビジョン「生徒も先生も生き生きと輝く学校に」その中の「輝く授業」に近づけるのではないだろうか。

- (1) 「学びの共同体」の共通理解のもと、全職員で協同的な学びを組織する。
- (2) 教師が互いに授業を見せ合い、年2回の公開授業を行うなど校内研修を実施する。

3 研究内容

- (1) 「学びの共同体」の取組の共通理解
 - ① 「勉強」から「学び合い」へ
 - ② 小グループによる学習場面の創造。多種多様な形態の研究。
 - ③ 問題解決学習場面の創造
 - ④ 授業時間の、生徒の活動時間の確保。
 - ⑤ 教師のテンションを下げる。
 - ⑥ 学びの作法等、指導・指示は徹底。
- (2) 学びを中心とした授業の創造
 - ① 課題提示などの工夫。
 - ② 生徒の学びに値する学習課題の工夫・設定。
 - ③ 思考力・判断力・表現力を育む学習活動の展開。
 - ④ 学びの時間の確保。
 - ⑤ 生徒が分かったことを説明する授業の展開。
- (3) 授業の形態
 - ① コの字形の教室
 - ② 4人男女混合のグループによるグループ学習の展開
 - ③ 「活動（個人作業）」「協同（グループ活動）」「表現の共有（対話）」などの展開
 - ④ 質の高い課題の準備
- (4) 教職員の取組み
 - ① 職員間の情報交換等による同僚性の育成。
 - ② 対話重視の中から生まれる教師と生徒のよりよい関係作り。
 - ③ 教師のテンションは下げる。くどい説明はしない。
 - ④ 教えるべきところは、しっかり教え身につけさせる。
 - ⑤ 学びの作法を身につけさせる。
 - ⑥ 授業中の生徒指導の確立。
 - ⑦ 開かれた教室。開かれた学校。常時、参観が認められた授業。
- (5) 自主公開研究会及び授業研究会の実施
 - 5月29日（金）・11月27日（金）の2回自主公開研究会の実施。
 - 6月30日（火）・12月14日（月）の2回S&Uコラボ公開研究会の実施。
 - 1月28日（木）…学力向上アドバイザー訪問による授業研究会
- (6) 授業公開
 - (5) で実施した授業研究会で、すべての授業を3，4校時に公開
 - 12月12日（土）学校開放日…1校時から5校時まですべての授業を開放



〈教員を対象とした模擬授業の様子〉

【5月29日（金） 第1回自主公開研究会の様子】



・3, 4校時全クラス・全授業者の授業公開 午後は焦点授業（2年国語 漢詩の世界）
東京大学より、小国喜弘先生をお呼びして、学びの共同体の理念について講話をいただきました。

【11月27日（金） 第2回自主公開研究会の様子】



・3, 4校時全クラス・全授業者の授業公開 午後は焦点授業（1年英語 Program8 Origami）
5月に来ていただいた小国喜弘先生を再度お呼びして、全クラスの様子を見ていただき、本校の研究の成果や課題についての講話をいただきました。

【12月14日（月） 第2回S&Uコラボ公開研究会の様子】



午前3, 4校時 全クラス・全授業者の授業公開 午後は焦点授業（2年美術 名画に侵入）
宇都宮大学から松本敏先生をお呼びして、指導講評をいただきました。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- ①授業開始スタート時に、職員研修で「学び合い」の授業についての共通理解を図り、教員を対象とした模擬授業を行ったため、教員一人一人が、学校課題を意識した授業を行うことができた。
- ②生徒たちは、話し合いを通して課題を深めたり思考を深めたりすることの大切さに気づき、人間関係を大切にしながら、「学び合い」ができるようになりつつある。
- ③研究授業を授業者一人の負担にせず、授業デザインを考える段階からプレ授業まで、多くの先生が関わることにより、同僚性が深まったと感じる。

(2) 課題

- ①学力向上を目指すには、基礎基本の定着は必須であるが、ジャンプ課題の設定にばかり先生方の意識が集中すると、生徒の実態に合わない授業になる危険性がある。授業の中で、生徒一人一人の「困り感」をつかむにはどうすればよいかを考えたい。
- ②焦点授業以外で、先生方が授業を公開しても多忙なため数人の参観となり、授業研究会が成り立たないことが多いので、授業公開の強化週間を設けるなど工夫したい。